

# 福音新聞

Good News  
NO.39

発行：浜松恵みキリスト教会

## 塩狩峠



**『神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって、神の愛が私たちに示されたのです。』(聖書)**

1909年(明治42年)2月28日の夜、北海道の塩狩峠において列車事故が起こりました。最後尾の客車の連結器が外れて、分離したその客車は単独で長い坂を下り始めたのです。このままなら客車の脱線転覆は避けることができないと誰もがわかりました。乗客は総立ちとなり、救いを求めて叫び出し、車内は大混乱となりました。その車両にたまたま乗客として乗り合わせていた鉄道職員の長野政雄(ながのまさお)氏は、その客車のデッキにあったハンドブレーキを力一杯締め付けましたが、客車は完全には止まりませんでした。もしこのまま走り続ければ、この先の急勾配でまた客車は暴走を始めるかもしれません。そのとき長野氏がデッキ上から後ろを振り向き、一瞬うなずいて乗客らに別れの合図をした後、自らの身を線路に投げ出しました。次の瞬間、客車は完全に停止しました。乗客は外に出て、自分たちが助かったことを知りました。しかしその客車の下に見えたのは、血まみれになって客車を止めた長野氏の無惨な遺体でした。

塩狩峠でのクリスマスチャンの死

彼は29歳という若さで殉職しましたが、その犠牲により乗客の命は救われました。長野氏の懐の中から、彼が常に持っていた遺書が発見されました。その一節に「苦楽生死均しく感謝。余は感謝してすべてを神に捧ぐ」と書かれています。彼は新年毎に遺書を書き直して、いつも自分の身につけることにより、神のためにはいつでも死ぬる覚悟をしていたそうです。彼は熱心なクリスチャンで、よく人々を教会に誘い、福音を伝えていました。

### 犠牲によってもたらされた救い

この長野政雄氏の話しをモデルとして、作家の三浦綾子氏は小説『塩狩峠』を著しました。彼の、身を挺しての死は、この小説を通して多くの人に知られ、多くの感動を呼びました。それは見ず知らずの他人を救うために自分の命を投げ出すことなど、到底真似の出来ることではないからです。では何故、長野氏は自分の命を投げ出

してまで、乗客を助けたかったのでしょうか？ かつて長野氏が書いた遺書の中に「余は感謝してすべてを神に献ぐ。：余は諸兄姉（クリスチャン達）が余の永眠によりて天父に近づき、感謝の真義を味われんことを祈る。」（抜粋）という一節があります。彼は自分が死後、天に行き、父なる神の近くに在る者とされることを確信し、感謝していました。もし、乗り合わせた乗客全てが彼と共に天の御国に行けるならば、それ程素晴らしいことはないのです。彼は今にも脱線転覆しようとしていた客車の中で「皆さん、天にもうすぐ行けますから神に感謝しましょう！」と喜びつつ叫んだことでしょう。しかし、そうではなかったため、彼は乗客全員が死ぬことを願わなかったのです。長野氏は、彼らが死後に何の希望もないところへ行くことをわかつていたからこそ、命を投げ出してまで彼らを救ったのです。

### 死後に行き着くさばきの場所

では乗客たちがもし、あのまま死んでいたらとしたり、どこへ行ったのでしょうか？ 聖書には『人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている』と記されています。そのさばきとは、永遠に続く火の池の地獄に投げ込まれることです。全ての人間は、真の神に対して罪人であり、その犯した罪を義なる、正しい神によつてさばかれなければならないのです。

『すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず』（聖書）人間は誰しも、真の神が創造されたあらゆるもの（動物、人間、天体等）を通して、その御方のご存在を認めることが出来るのです。『神について知りうることは、彼ら（人間）の間で明らかです。神が彼らに明らかにされたのです。神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物（人間）を通して知られ、はっきりと認められるので、彼らに弁解の余地はありません。』（聖書）しかし、『彼らは神を知っていながら、

神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなつたのです。彼らは、自分たちは知者であると主張しながら愚かになり、朽ちない神の栄光を、朽ちる人間や、鳥、獣、這うものに似たかたちと替えてしまいました。』(聖書)この罪のために、人間は死後に恐ろしいさばきを受けなければならぬのです。だからこそ、長野氏だけでなく全てのクリスチャンは、そのような場所に誰も行かないようにと願っているのです。

### 尊い犠牲を払われたキリスト

神は私達罪人のために救い主を用意してくださいました。それは神のひとり子であられるイエス・キリストです。キリストは罪人を救うためにこの世に人として来られ、十字架に架かつて死んでくださいました。罪のない御方が私達罪人の身代わりとなつて、義なる神からのさばきを受けてくださいまし

た。それは私達を愛し、その全ての罪を赦し、救うためであつたのです。キリストは死後、三日目に葬られた墓の中より復活されました。そして40日後にキリストは天へ行かれました。そのキリストを私達の救い主として信じ受け入れる人は誰でも、死後にさばきを受けることなく、永遠の天の御国に行ける方となるのです。

弟子達はキリストの復活の御姿を何度も目撃していましたので、自分達もキリストの行かれた天に必ず行けるという確信を持ち、大胆にキリストの救いについて宣言しました。そのために殉教の死を遂げた者達が多く出ました。しかしそれでも、キリストの救いについて語るクリスチャン達が途絶えることはありませんでした。それは彼らも天に行き、神の近くにいる者とされることを確信していたからです。そして、彼らが天に行くまでの間、まだ救われていない、地獄に向かいつつある罪人が救われることを強く

願っていたからです。『実にキリストは、私たちがまだ弱かつたころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれませんが。しかし、私たちがまだ罪人であつたとき、キリストが私たちのために死なれたことによつて、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。』(聖書)

どうか、私達罪人を救うためにこの世に来られ、いのちを捨ててくださったイエス・キリストをご自身の救い主として信じ受け入れ、私達と共に天の御国に行けることを神に感謝する人となつてください。



# 特別伝道集会のお知らせ

1/25

土曜日

Pm 3:00~

Pm 7:30~

日曜日

1/26

Am 10:30~

Pm 2:00~

1/27

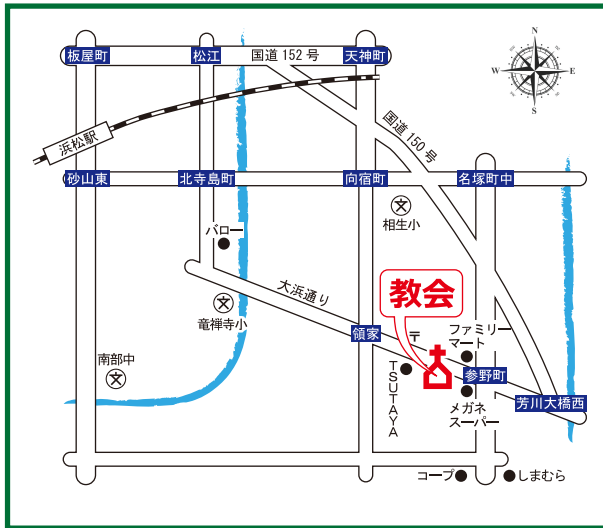
月曜日

Am 10:30~

講師：広島県福山市 深津キリスト教会 室木 太 先生

各回託児を用意しています。お子様がおられる方も遠慮なくお越しください。

また、参加費などは一切必要ありません。駐車場もあります。



## 定例集会のご案内

- ☆日曜日 こども礼拝 AM 9:30
- 一般礼拝 AM10:30
- 聖書学び会 PM 1:30
- ☆水曜日 聖書学び会 PM 7:30
- ☆木曜日 婦人集会 AM10:30
- ☆土曜日 中高生集会 PM 2:00
- 聖書学び会 PM 7:30



浜松駅より遠州浜行、または遠州浜温泉行のバスで「領家郵便局」まで約6分

## 浜松恵みキリスト教会

牧師 畑川 洋一郎  
副牧師 榊原 康博

〒430-0852 浜松市中区領家3丁目22-2 TEL (053) 548-4812

※ 当教会は、エホバの証人（ものみの塔）、統一協会（原理研）、末日聖徒キリスト教会（モルモン教）などとは違い、聖書そのものを学ぶキリスト教会です。尚、これらの団体でお悩みの方、違いをお知りになりたい方は、是非ご連絡下さい。